



プログラム

里山オリジナル図鑑をつくらう

里山にすむ動植物を観察するといろいろなことに気づきます。気づいたことや新しい発見を
しょうずにまとめると自分だけの里山グッズをつくることができます。

活動のねらい

里山を歩きながら、動植物の観察を行い、さまざまな動植物と触れ合う。また、観察の記録
をとおして、里山にすむさまざまな動植物の名前や特徴、性質を知る。

□準備物 ◇事前準備

- | | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 筆記用具 | <input type="checkbox"/> 観察記録用紙 | <input type="checkbox"/> 色鉛筆 | <input type="checkbox"/> 野帳またはメモ帳 | <input type="checkbox"/> デジタルカメラ |
| <input type="checkbox"/> バインダー | <input type="checkbox"/> 樹木図鑑 | <input type="checkbox"/> 生きもの図鑑 | | <input type="checkbox"/> ルーペ |
| <input type="checkbox"/> フィルムケース | <input type="checkbox"/> 新聞紙 | <input type="checkbox"/> 厚紙(ダンボール紙) | | <input type="checkbox"/> ゴムひも |
| <input type="checkbox"/> ハサミ | <input type="checkbox"/> バケツ | <input type="checkbox"/> あみ | <input type="checkbox"/> 温度計 | <input type="checkbox"/> 棒またはひも |

◇事前に観察場所やコースを決め、下見を行う。

◇事前に観察場所でみられる動植物を調べ、名前の確認などをする。

◇葉の乾燥標本をつくる場合は、標本の作り方について確認しておく。

※葉の乾燥標本の作り方は茨城県自然博物館ホームページ「里山自然発見2」の中で紹介
しています。

◇観察を行う場合には、長靴や軍手、汚れてもよい服装などを準備する。

里山オリジナル図鑑の例

例.1 観察したエリア内にすむ生きものを集めたオリジナル図鑑

・「雑木林の樹木図鑑」, 「田んぼの生きもの図鑑」など

例.2 テーマをしぼった生きものの観察記録をとじ込んだオリジナル図鑑

・「水辺の外来種特集」, 「ドングリの木特集」, 「里山の危険な生きもの」など

例.3 観察記録と葉の乾燥標本をとじ込んだオリジナル図鑑

・「雑木林の葉っぱ図鑑」, 「雑木林のメンバー表」など

※上記以外にも、継続して観察した記録や季節ごとの移り変わりなど工夫したオリジナル図鑑を考えてみ
ましょう。

活動のしかた

1. 観察記録用紙を配り、観察のポイントを説明します。

* どのような観察をするのか、観察のポイントをおさえて観察記録用紙をつくります。

2. 水辺や田んぼ、雑木林を歩いて動植物を観察し、観察記録用紙に記録します。

* 最初はあまり広すぎないように観察のエリアを決めます。(10m×20mなど)

* 動植物の特徴や性質を観察し、名前を図鑑などで調べます。

3. 動植物のすがたをスケッチしたり、デジタルカメラなどで記録したりします。

* 必要に応じて動物を採集して飼育したり、植物(葉やタネなど)を採集して乾燥標本をつくったりします。

* 動植物の採集は最小限に行い、特に希少なものは採集しないようにします。

4. スケッチ・写真を含む観察記録や標本をとじ込んでオリジナル図鑑をつくります。

○まとめ ☆発展

○里山でどんな動植物がみられたかを確認、お互いに発表しましょう。

○どのような動植物が、どこに、どんな様子ですんでいたか確認してみましょう。

☆観察できた動植物を参考に、水辺や田んぼ、雑木林の環境について考えてみましょう。

☆季節ごとに観察して、里山の生きものカレンダーをつくってみましょう。

☆つくったオリジナル図鑑を持って、次の観察に出かけてみましょう。